

ガソリンの取扱いに注意してください！

ガソリンは、自動車の燃料等に用いられ、私たちの生活において、なくてはならない身近なものです。しかし、ひと度、その貯蔵や取扱方法を誤れば、火災や爆発などの甚大な被害を及ぼす可能性があります！



ガソリンの危険性について



ガソリンは、気温がマイナス 40℃でも気化し、**静電気などの小さな火源でも爆発的に燃焼する物質**です。

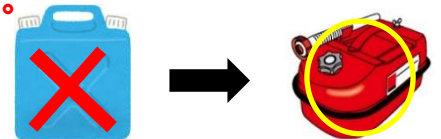
また、ガソリンの蒸気は、空気より重いため、穴やくぼみなどに溜まりやすく、離れたところにある思わぬ火源(ライター等の裸火、静電気、衝撃の火花等)によって、引火する危険性がありますので、取扱いには十分な注意が必要です。

ガソリンの保管について

ガソリンを入れる容器は、消防法令により一定の強度を有しなければならないとされており、材質により容量が制限されています。**特に、灯油用ポリ容器(容量 20 リットル)にガソリンを入れることは非常に危険なため、禁止されています。**

【次のような場所での保管は避けてください。】

- 火の気のある場所
- 直射日光の当たる場所
- 置場が不安定で、落下物により損傷を受ける場所



※ 参考「総務省消防庁のガソリンの安全な場所貯蔵・取り扱いに関する資料」

ガソリン取扱い時の注意事項



- 周囲は整理・整頓し、火の気がないことを確認のうえ、万が一こぼれても、人や周囲に影響がない風通し・換気のよい場所で取り扱ってください。
- 事前に消火器などの消火準備をしてください。
- 容器は、破損・変形したものは使用せず、しっかり蓋を閉めてください。また、不用意に蓋を開けず、蓋を開ける場合は、必ずガス抜きをしてから開けてください。
- 衣服や身体に付着した場合は、衣服を脱いで大量の水と石鹸で洗い流してください。

【その他の注意点】

- ◆ 自動車や発電機などに給油する際は、必ずエンジンを止めてください。
- ◆ セルフスタンドでは、利用客自らがガソリンを容器に入れることはできません。
- ◆ ガソリンや軽油の買いためは、極力控えてください。